



**発熱等の風邪症状のある方や2週間前までに渡航歴にある方など  
検査を希望される方は電話にてご予約をお願いします 検査枠の都合  
によりご予約のない方はお断りする場合もあります ご了承ください**

発行元

西村クリニック

四條畷市楠公 1-14-6

072-862-3001

今から三十年前、一九九五年一月十七日の未明、阪神地方にマグニチュード七・三、震度七の巨大地震が発生しました。その頃私は奈良医大救命救急センターに勤務していましたが、奈良医大でも相当の揺れがあり当日当直をしていた医師の話によれば（当直は医師二名が二段ベッドの上下で仮眠するのですが）あまりの揺れのため下で寝ていた医師が二段ベッドの上から相棒が落ちてこない様に両足で支えたとのことであります。そして救命センターのICUでは人工呼吸器等多くの機械設備が稼働しており、すぐさま機械が問題なく動いているかをチェックして回ったそうでもあります。そして奈良医大では直ちに救命センターの医師が中心となって救護チームが結成され現地に赴く事になったのであります。具体的には医師二名、事務兼運転手一名、看護師二名でチームを組み二泊三日の交代勤務にて現地入りをしたのであります。奈良医大チームの担当となりましたのは神戸市内のある学校の体育館で生活している避難民の方々の診療でありました。私は震災後十日経った第三次救護隊として現地に赴いたのであります。道中の車から見える風景は本当に悲惨なものであります。まず道路はガレキであちこちが寸断されておりまさにそのガレキを避けながら進んで行くという具合でありました。それ以上に驚いたのはあちこちでたくさんのお家屋だけでなく、巨大ビルまでもが倒壊したり傾いたりしている情景でありました。鉄筋はむき出しになっており壁も崩れ落ちてとてもこの世のものとは思えない姿でありました。そして学校の体育館に到着するとそこには多くの人々が避難生活をされておりました。私たちは体育館の控室を借りて診察に当たったのですが何せ一月の寒い時期で風邪が蔓延しており、連日たくさんの方々が（体育館に避難している方々以外にも）診察に来られました。そして診察の間には体育館の中を巡回するのですが、倒れていたり食欲不振になったりする方々も続出でその都度点滴をして回りました。夜はと言いますと私たちの前任者は体育館の玄関の地べたで寝たとの話を聞いており、これは大変だと相当の覚悟をしておりましたが、幸いな事に私たちのチームからは港に停泊している大きな船の中で休む事が出来るようになり、この点は少しの救いになったかなあと思いました。とりもなおさずこの二泊三日の現地での医療活動は私にとって貴重な体験となりました。三十年前は私も三十才台と若かったの病気もせず帰宅しましたが、震災というものの恐ろしさを今更ながらつくづくと考えさせられる出来事となったのであります。

院長 西村 章

毎月始めの診察の際はマイナンバーカード（保険が更新されたもの）や保険証の提示が保険のルールにて定められています。マイナンバーカード（保険が更新されたもの）や保険証の提示のない方は自費にて診察と会計をさせていただきます。また領収書の再発行もお断りさせていただきます。当月内でしたら上記のものとお領収書をあわせて持参くださいますと差額を返金させていただきます。次月以降につきましてはご自身で返金手続きをしてください。重ね重ね宜しくお願いいたします。

## 編集後記

何もしない時間を作り

脳を休めましょう♪

みなさんは「猫エイズ（FIV）」というものを知っていますか？猫の慢性ウイルスの1つで正式名は「猫免疫不全ウイルス(FIV)感染症」といいます。人間のエイズウイルスとはウイルスの種類が異なるため人への感染は100%ありません。猫が一度感染してしまうと完治は不可能ですが感染後も発症さえしなければ普通に生活できます。発症しないまま寿命を全うすることも多い病気です。「エイズ」という言葉の響きから暗いイメージを抱きがちですが無症状キャリア期であればFIVウイルスを持っているだけの元気な子で無症状期が長く発病せずに寿命を全うできるケースも実に多いです。何らかの病気を発症する恐れはどんな猫でもあることなので「FIVキャリアである」ということを1つの個性として捉え譲渡会などでは誤解や偏見から敬遠されることも多いFIVの猫たちですがお迎えをする選択肢からははずさないであげてほしいと思います。またなぜか猫エイズの可愛い子が保護団体の元にたくさんいます。ぜひ会いに行ってください。「猫エイズ=短命」というわけでもありません。FIVキャリアの猫もノンキャリアの猫と同様に幸せになれるようにと思います。またいま自宅で幸せに暮らしている猫も調べてみると猫エイズかもわからず発症していないだけかも知れません。猫エイズや白血病の猫達も幸せになってもらいたいです。また猫と犬を飼うことも可能でとても楽しいプランです。小型犬2と保護猫2を飼っている私や当院看護師は身をもってその楽しさや可愛さ癒しの時間をもらっています。保護猫を迎えてからも団体の方々の指導を受けながら安心して楽しい時間を過ごせます♡